



特42

920

島鮮堂壽梓

二編下

つぎ 教りぬけおみとろ難者ハ
 存せれとねおたてたおある
 事と好まぬ人先言授けお大
 家と受けお者のおりお
 小おねおあつて



おねお
 先トお
 先中人と
 仍てお



おねお
 先トお
 先中人と
 仍てお

おねお
 先トお
 先中人と
 仍てお

おねお
 先トお
 先中人と
 仍てお



おねお
 先トお
 先中人と
 仍てお

今一服と付
出を烟草も糸南

あめりがらつまる
烟葉小一丸

ぐられく付けらるる齒の痕
又あふとの記念とすべし

あゝ如き者番の番ひも
引かき入るるが縁と惜む

中仲の彼の縁の五帝
いかに物ごとく送りゆ

いかに物ごとく送りゆ
押せるや濃華の空と

経めし



大室へ

瞬く

忽ち

おも

おも

おも

おも

おも

おも

おも

おも

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

放りし飾り
結ぶ花の葉
那へ送せしは
しも丁を操る
笑掃ひたる
文久元年跡生
中村の事し
体むる間も
を丁用の中
之の如き姉
中村の事し
体むる間も
を丁用の中
之の如き姉



○夏の日のあつひ
今まの時流りたる

むき

一挺赤海
たの縁坂
の石外也

招た
あへ

切是
小一
事し

あゝ死
傍へ
毛屋
傾

あゝ死
傍へ
毛屋
傾

あゝ死
傍へ
毛屋
傾

あゝ死
傍へ
毛屋
傾

あゝ死
傍へ
毛屋
傾





つぎ 難世せうりごとと探拵んてお侍り
 ちく茶洲と後梅世しゆめてとてと
 懺悔一平や月日
 おあふぬ
 我まへ
 休ま
 体の方を
 拵て遊せん
 海の小橋ふ成とせい

一統と芳りつこ
 が痛へと傍ひやく
 御所樓梅松録
 御 浅草瓦町十二番地
 明洋亭 四月十九日
 出版人 網島亀吉

芳川春海園
 東京奇聞 七編
 御所樓梅松録 十五編
 出版人

芳川春海園
 島田一郎梅雨日記 五編
 命養生善惡鏡 一折本

芳川春海園
 白鷺阿婆系顛末 三編
 澤村田之助曙草紙 五編
 出版人

芳川春海園
 坂東彦三倭一流 三篇
 徳川年代鑑 一折本

龜地本問屋
 編輯人 岡本勘造
 出版人 網島亀吉

